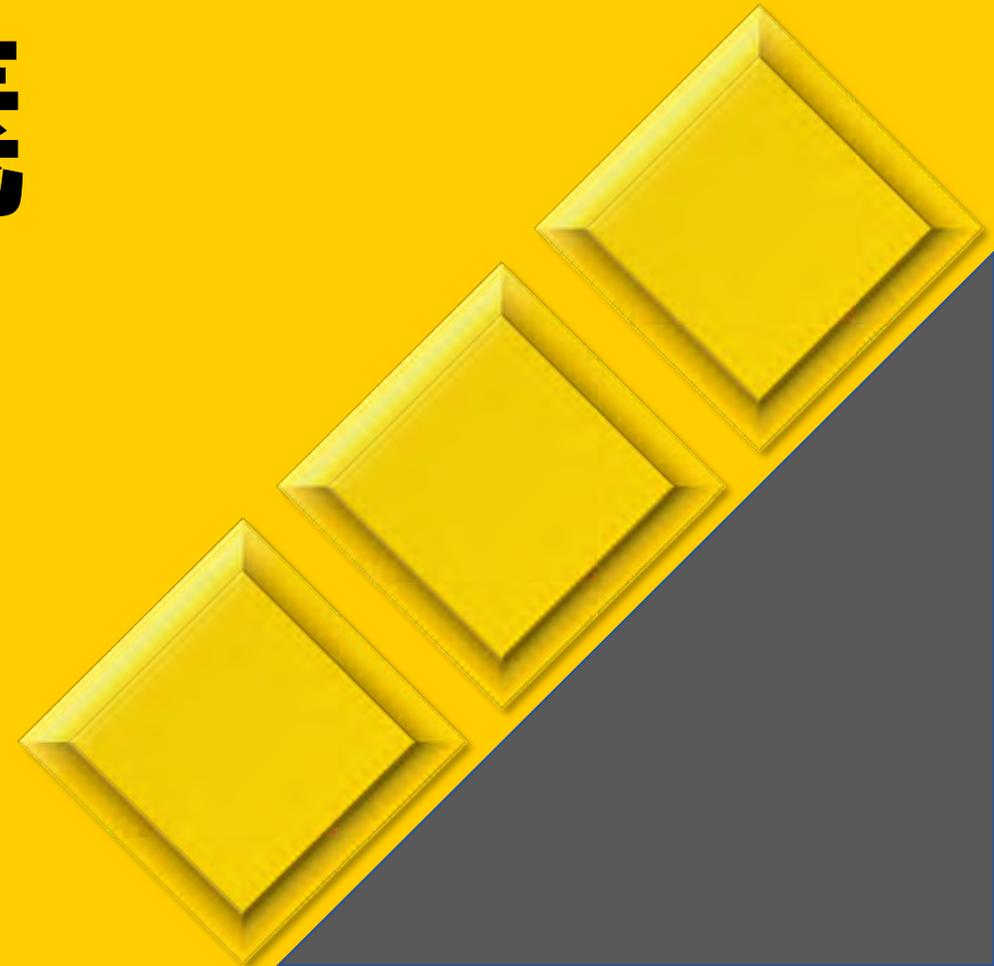


春学期 遠隔授業 事例報告

やってみた、 オンライン講義

千葉商科大学 サービス創造学部
専任講師 中村聡宏



はじめに

春学期担当講義について

はじめに

講義名	履修者数	形式
ビジネスパーソンシップ論/スポーツマンシップ論	211名	—————
スポーツ・エンターテインメントサービス論	89名	要ネットPC
インタビュー法	212名	要ネットPC
プロジェクト実践3A (スポーツビジネスBB)	29名	要ネットPC
プロジェクト実践3A (スポーツビジネスFB)	19名	要ネットPC

春学期担当講義について

はじめに

講義名

履修者数

形式

ビジネス A方式 (D方式 = 画面共有等によるオンライン講義)

ス D方式 = 画面共有等によるリアルタイム配信 / グループワークあり

イ D方式 = 画面共有等によるリアルタイム配信 / グループワークあり

プロジェクト D方式 = 学生によるリアルタイム会議形式 要ネットPC

プロジェクト D方式 = 学生によるリアルタイム会議形式 要ネットPC

オンライン・プロジェクト活動

スポーツビジネス BB・プロジェクト

Baseball & Basketball



スポーツビジネス FB・プロジェクト

Football & American Football



©1992 JEF.FC



プロジェクト実践3A（スポーツビジネスBB）	29名	要ネットPC
プロジェクト実践3A（スポーツビジネスFB）	19名	要ネットPC

※定員40名

※履修メンバーは自己PR・志望動機レポートおよび面談によって決定

※講義は週1度の全体会議の場として学生による議事進行・講義資料・議事録作成等も学生

※Microsoft TeamsおよびZoomを活用

<BB>

※千葉ロッテマリーンズ（NPB）・千葉ジェッツふなばし（B.LEAGUE）と連携

※高野文彬特命講師（千葉ジェッツふなばし）によるサポート

<FB>

※ジェフユナイテッド市原・千葉（J.LEAGUE）・オービックシーガルズ（X.LEAGUE）と連携

※脇田雅史特命講師（オービックシーガルズ）によるサポート

プロジェクト組織イメージ





4月17日～（以後毎週） 学生主導で活動スタート

- ・自己紹介・アイスブレイクなど
- ・プロジェクト活動目的設定
- ・個人成果目標設定

5月11日～（以後毎週） 講義スタート

- ・グランドデザイン
- ・企画策定
- ・組織編成
- ・オンラインイベント策定・運営
- ・学生による研究調査・授業

【その他】

- ・BB・FBプロジェクト共通タスクフォース
- ・外部ステークホルダーとのMTG



利用ツールについて



講義のメインはZoomで（有料プラン利用）

- ・全員の表情が見えるため、発言しやすい空間づくりを実現。
- ・グループワーク時には、ブレイクアウトルームを活用。
- ・ホワイトボード機能・画面共有等を活用しながら実行。
- ・ビジネスパーソンとのMTGはZoomやGoogle Meetなど多いため、使用方法・機能に慣れることも意図。



MTG・ファイル共有はTeamsで

- ・ブレイクアウトルームを用意する必要がない。
- ・部署ごとのチャットログ等が残るため情報が活用しやすい。
- ・議事録・マニュアル・企画書・報告資料など、講義関連のファイル共有はMicrosoft Teamsを活用。



授業時間外の情報共有はLINEがメイン

- ・ 日常的な情報共有は、学生たちが使い慣れているLINEで。
- ・ グループ作成、自己紹介リレー動画共有からスタート。
- ・ チャット・ノートをメインに活用。
- ・ LINE通話、画面共有等できるビデオ通話機能も随時利用。
- ・ 情報がフローしていくため、ファイル共有には不向き。



スケジュール・ファイル管理はGoogleで

- ・ 教員スケジュールはGoogleカレンダーで学生に共有してアポどりをスムーズに。
- ・ 人事希望等・アンケート関連はGoogleフォームを活用。
- ・ 各種ファイルはGoogle Drive内フォルダに整理して収納。

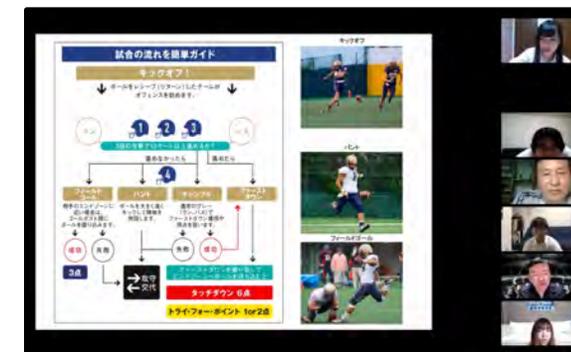
◆Pepperオンライン講義「スポーツマンになろう！」

ソフトバンク×日本スポーツマンシップ協会×千葉商科大学×千葉ジェッツふなばし共同企画。Pepperによるスポーツマンシップ教育プログラムを開発し、千葉県限定で千葉ジェッツバージョンにカスタマイズ、大学生による小中学生向け教育プログラムとして展開。8月20日（木）にスタートイベントを実施し、8月21日（金）のチバテレ情報番組「シャキット！」で紹介。



◆アメフト観戦オンライン勉強会

ルール解説・観戦時の勘所など、プレー動画を特命講師が解説するオンライン勉強会を開催。学生向けのインナーイベントを教職員に開放して開催したところ好評だったため、今後は対象をオープンに、また複数競技でのイベントも企画予定。



◆高校生向けアメフトオンライン講座

「高校生集まれ！大学生から学ぶアメフトオンライン講座」と名付け、アメフト観戦者・ファン層を拡大するため高校生向けオンラインイベント。第1回は9月22日（火・祝）に開催予定。高校長向けへの依頼、高校生への事前告知説明会・イベント広報・イベント実施など、一連の流れをすべてオンライン企画として展開中。

◆サマンサベガ×千葉ジェッツ グッズ・イベント開発

公式サポーター企業サマンサタバサジャパンリミテッドの若者向けブランド「Samantha Vega」と連携して、グッズ開発をしてきた（2018年千葉ジェッツ、2019年千葉ロッテマリーンズ・ベイエフエム）。Samantha Vegaからのリクエストで、千葉ジェッツとの連携を今年あらためて展開。商品開発もしくはモノにこだわらないコトづくりも見据えた企画開発を実施すべく準備中。



◆CUC Chiba Sports Summit 2020

「CUC Chiba Sports Summit」は2016年に第1回を開催。大学と4球団の関係性をプラットフォームとしてとらえて、企業をはじめとする学部ステークホルダーの連携を深めることと、集まる社会人から行動や思考を学生が学ぶ場として開催してきた。例年5月にThe University DININGを舞台に実施してきたが、今年は新型コロナウイルスの影響で断念したことを受け、新たな試みとして8月28日（金）にオンラインイベントを実施することを決定。ゲストには、田村征也氏（株式会社千葉ジェッツふなばし代表取締役社長）、荒木重雄氏（株式会社スポーツマーケティングラボラトリー代表取締役社長）が登壇予定。



CUC CHIBA SPORTS SUMMIT 2020
SPORTS SERVICE & MARKETING NETWORK



オンライン・グループワーク

大人数グループワークを含む授業例

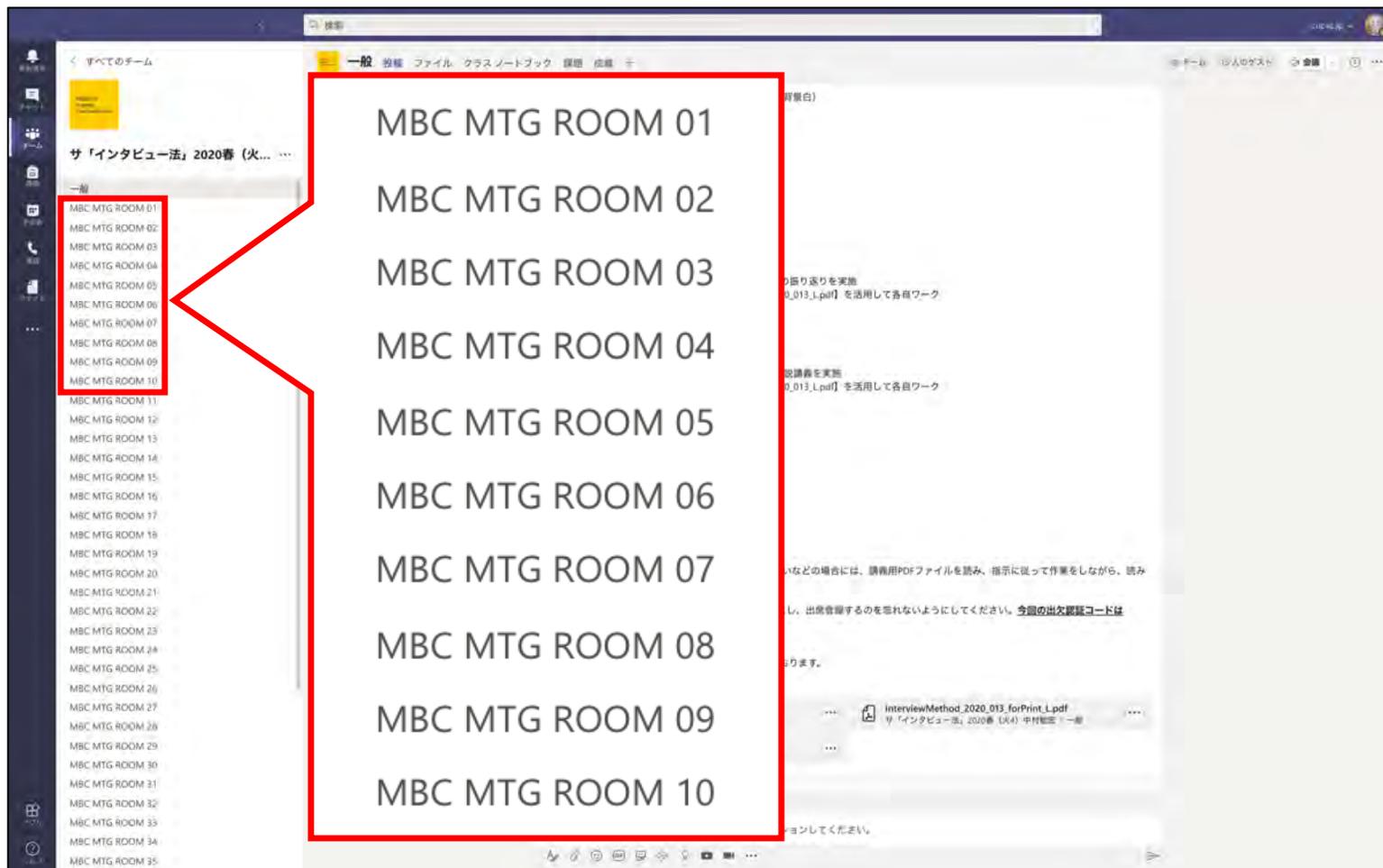
オンライン・
グループワーク

◆インタビュー法 講義イメージ



大人数講義におけるグループワーク

オンライン・
グループワーク



インタビュー法 MTG ROOM一覧 2020.7.21

Room No.	Room Name								
01	山本 隆	11	山本 隆	21	山本 隆	31	山本 隆	41	山本 隆
02	山本 隆	12	山本 隆	22	山本 隆	32	山本 隆	42	山本 隆
03	山本 隆	13	山本 隆	23	山本 隆	33	山本 隆	43	山本 隆
04	山本 隆	14	山本 隆	24	山本 隆	34	山本 隆	44	山本 隆
05	山本 隆	15	山本 隆	25	山本 隆	35	山本 隆	45	山本 隆
06	山本 隆	16	山本 隆	26	山本 隆	36	山本 隆	46	山本 隆
07	山本 隆	17	山本 隆	27	山本 隆	37	山本 隆	47	山本 隆
08	山本 隆	18	山本 隆	28	山本 隆	38	山本 隆	48	山本 隆
09	山本 隆	19	山本 隆	29	山本 隆	39	山本 隆	49	山本 隆
10	山本 隆	20	山本 隆	30	山本 隆	40	山本 隆	50	山本 隆
11	山本 隆	21	山本 隆	31	山本 隆	41	山本 隆	51	山本 隆
12	山本 隆	22	山本 隆	32	山本 隆	42	山本 隆	52	山本 隆
13	山本 隆	23	山本 隆	33	山本 隆	43	山本 隆	53	山本 隆
14	山本 隆	24	山本 隆	34	山本 隆	44	山本 隆	54	山本 隆
15	山本 隆	25	山本 隆	35	山本 隆	45	山本 隆	55	山本 隆
16	山本 隆	26	山本 隆	36	山本 隆	46	山本 隆	56	山本 隆
17	山本 隆	27	山本 隆	37	山本 隆	47	山本 隆	57	山本 隆
18	山本 隆	28	山本 隆	38	山本 隆	48	山本 隆	58	山本 隆
19	山本 隆	29	山本 隆	39	山本 隆	49	山本 隆	59	山本 隆
20	山本 隆	30	山本 隆	40	山本 隆	50	山本 隆	60	山本 隆
21	山本 隆	31	山本 隆	41	山本 隆	51	山本 隆	61	山本 隆
22	山本 隆	32	山本 隆	42	山本 隆	52	山本 隆	62	山本 隆
23	山本 隆	33	山本 隆	43	山本 隆	53	山本 隆	63	山本 隆
24	山本 隆	34	山本 隆	44	山本 隆	54	山本 隆	64	山本 隆
25	山本 隆	35	山本 隆	45	山本 隆	55	山本 隆	65	山本 隆
26	山本 隆	36	山本 隆	46	山本 隆	56	山本 隆	66	山本 隆
27	山本 隆	37	山本 隆	47	山本 隆	57	山本 隆	67	山本 隆
28	山本 隆	38	山本 隆	48	山本 隆	58	山本 隆	68	山本 隆
29	山本 隆	39	山本 隆	49	山本 隆	59	山本 隆	69	山本 隆
30	山本 隆	40	山本 隆	50	山本 隆	60	山本 隆	70	山本 隆
31	山本 隆	41	山本 隆	51	山本 隆	61	山本 隆	71	山本 隆
32	山本 隆	42	山本 隆	52	山本 隆	62	山本 隆	72	山本 隆
33	山本 隆	43	山本 隆	53	山本 隆	63	山本 隆	73	山本 隆
34	山本 隆	44	山本 隆	54	山本 隆	64	山本 隆	74	山本 隆
35	山本 隆	45	山本 隆	55	山本 隆	65	山本 隆	75	山本 隆
36	山本 隆	46	山本 隆	56	山本 隆	66	山本 隆	76	山本 隆
37	山本 隆	47	山本 隆	57	山本 隆	67	山本 隆	77	山本 隆
38	山本 隆	48	山本 隆	58	山本 隆	68	山本 隆	78	山本 隆
39	山本 隆	49	山本 隆	59	山本 隆	69	山本 隆	79	山本 隆
40	山本 隆	50	山本 隆	60	山本 隆	70	山本 隆	80	山本 隆
41	山本 隆	51	山本 隆	61	山本 隆	71	山本 隆	81	山本 隆
42	山本 隆	52	山本 隆	62	山本 隆	72	山本 隆	82	山本 隆
43	山本 隆	53	山本 隆	63	山本 隆	73	山本 隆	83	山本 隆
44	山本 隆	54	山本 隆	64	山本 隆	74	山本 隆	84	山本 隆
45	山本 隆	55	山本 隆	65	山本 隆	75	山本 隆	85	山本 隆
46	山本 隆	56	山本 隆	66	山本 隆	76	山本 隆	86	山本 隆
47	山本 隆	57	山本 隆	67	山本 隆	77	山本 隆	87	山本 隆
48	山本 隆	58	山本 隆	68	山本 隆	78	山本 隆	88	山本 隆
49	山本 隆	59	山本 隆	69	山本 隆	79	山本 隆	89	山本 隆
50	山本 隆	60	山本 隆	70	山本 隆	80	山本 隆	90	山本 隆
51	山本 隆	61	山本 隆	71	山本 隆	81	山本 隆	91	山本 隆
52	山本 隆	62	山本 隆	72	山本 隆	82	山本 隆	92	山本 隆
53	山本 隆	63	山本 隆	73	山本 隆	83	山本 隆	93	山本 隆
54	山本 隆	64	山本 隆	74	山本 隆	84	山本 隆	94	山本 隆
55	山本 隆	65	山本 隆	75	山本 隆	85	山本 隆	95	山本 隆
56	山本 隆	66	山本 隆	76	山本 隆	86	山本 隆	96	山本 隆
57	山本 隆	67	山本 隆	77	山本 隆	87	山本 隆	97	山本 隆
58	山本 隆	68	山本 隆	78	山本 隆	88	山本 隆	98	山本 隆
59	山本 隆	69	山本 隆	79	山本 隆	89	山本 隆	99	山本 隆
60	山本 隆	70	山本 隆	80	山本 隆	90	山本 隆	100	山本 隆

Microsoft Teamsのクラスチーム内に、MTG Roomのチャンネルを必要数用意。そのMTG Roomに、参加者を割り当てた名簿を毎回用意し、それを確認してもらいながら各チャンネルに入室。会議を立ち上げるリーダー、リーダー不在の場合のサブリーダーを設定。議事進行係、書記係等役割を決めてもらい、テーマに沿ったグループディスカッションを行う。

グループワークの進行と効果

オンライン・
グループワーク

◆グループワークの流れ

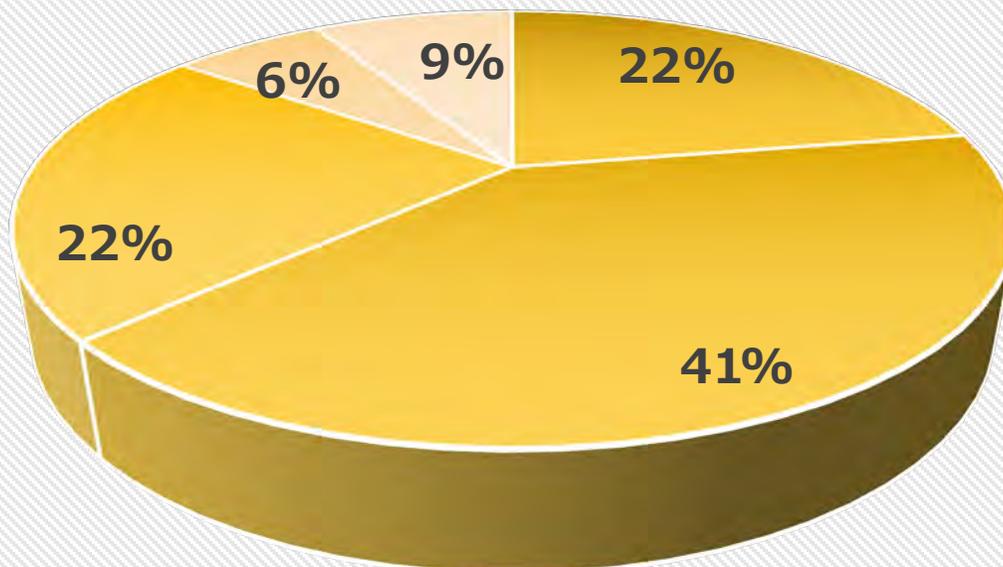


教育というサービスを共創する「共育」的思考でのチャレンジ

A方式でも理解・受講できる講義資料作成と体制確保には留意

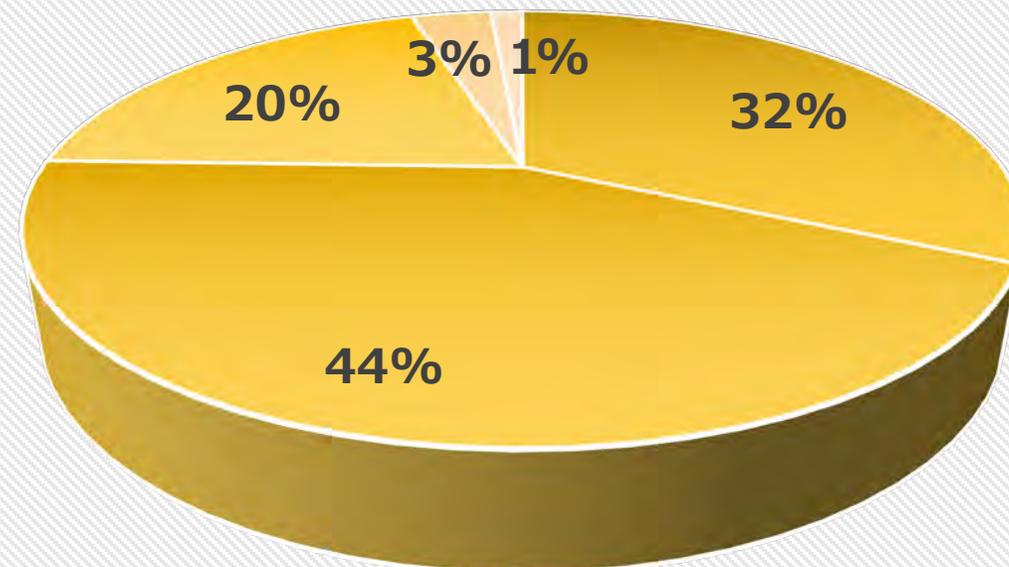
グループワークに対する反応

グループワーク開始時



- かなりうまくできた
- うまくできた
- どちらともいえない
- うまくできなかった
- 全くうまくできなかった

グループワーク終了時



- かなりうまくできた
- うまくできた
- どちらともいえない
- うまくできなかった
- 全くうまくできなかった

ゲストスピーカー招聘

インタビュー法

(火曜・4時限目)

ゲストスピーカー
招聘

Master of Business Communication

インタビュー法 第8回 ゲストスピーカー

テーマ
インタビューのプロに聴く
コミュニケーションのヒント

6.30
15:25~17:10

フリージャーナリスト **高樹ミナ** × **江口桃子** フリーアナウンサー
Mina Takagi Momoko Eguchi




高樹ミナ氏、自由、F1、F2で活躍を経て、2000年フリージャーナリストとなり、08年東京、19年大阪、20年福岡、21年札幌、22年仙台、23年東京と全国をめぐって、10年以上のフリージャーナリストとして活躍。自身の経験から、取材・編集・制作のノウハウを伝授する。取材・編集・制作のノウハウを伝授する。取材・編集・制作のノウハウを伝授する。

江口桃子氏、フリーアナウンサーとして活躍。フリーアナウンサーとして活躍。フリーアナウンサーとして活躍。

©2020 Akira Nakamura. All rights reserved.

Master of Business Communication

インタビュー法 第12回 ゲストスピーカー

テーマ
キャリアデザインとコミュニケーション
—ビジネスパーソンに求められるコミュニケーションスキル

7.28
15:25~17:10

月刊『経済界』編集長 **古賀寛明** × **竹澤正剛** スポーツボランティアネットワーク講師
Hiroaki Koga Masayoshi Takezawa




古賀寛明氏、月刊『経済界』編集長として活躍。月刊『経済界』編集長として活躍。

竹澤正剛氏、スポーツボランティアネットワーク講師として活躍。スポーツボランティアネットワーク講師として活躍。

Master of Business Communication

インタビュー法 ゲストスピーカー【延長戦】

フリージャーナリスト **高樹ミナ** Mina Takagi

フリーアナウンサー **江口桃子** Momoko Eguchi

月刊『経済界』編集長 **古賀寛明** Hiroaki Koga

スポーツボランティアネットワーク講師 **竹澤正剛** Masayoshi Takezawa






オンライン懇親会はZOOMで！今夜19時30分START！



6月30日は高樹ミナ氏（フリージャーナリスト）×江口桃子氏（フリーアナウンサー）、7月28日は古賀寛明氏（雑誌『経済界』編集長）×竹澤正剛氏（スポーツボランティアネットワーク講師/スターバックスジャパン）と2度ゲストスピーカーによる講義セッションを実施。6時限目の時間帯にはZoom懇親会を開催。

ビジネスパーソンシップ論／スポーツマンシップ論

(木曜・3時限目)

ゲストスピーカー
招聘

CUC
Chiba University of Commerce

ビジネスパーソンシップ論／Game12

スポーツマンシップで 社会課題の解決に挑む

日本体育大学2年
アルティメットU20日本代表

大塚捺子 × 吉村隆志

Natsuko Otsuka

2017年全国ユースアルティメット選手権大会で優勝。2018年U20日本代表として世界大会に出場しベスト6となる。同年高校生未来会議に参加し法案づくりの課題コンクールで優秀賞受賞。6年間の女子校生活で同性から複数回告白された経験があり、そうした同性に告白する人を周りの友人があざ笑った姿が課題意識の原点。自身がプレーするアルティメットと競技特有のスポーツマンシップを活用し、LGBT問題など課題山積の現代社会で、互いを尊重し合い共生できる環境を実現したいと考える。

本郷高等学校3年
ラグビーU17日本代表

7.30

13:30～15:15

JSA

2019年ラグビー-KOBELCO CUP 2019 第15回全国高等学校合同大会U17優勝。ラグビーU17日本代表。中国と日本のクオーター。小学生の頃、外国人に対する差別の存在を知ったことから、親が外国人であることをコンプレックスに思うようになる。中学入学後、外国人にも寛容なラグビーを始め、競技を通して学んだスポーツマンシップによって自身のコンプレックスが薄れた。自身がプレーするラグビー競技特有のとスポーツマンシップを活用し、多文化共生社会の実現を目指す。



7月30日第12回講義で、大塚捺子氏（日本体育大学2年）×吉村隆志氏（本郷高等学校3年）による講義セッションを実施。アルティメットとラグビーという競技こそ違えどアンダー年代日本代表の経験をもち、大学生と同世代の2人。LGBTや人種差別など社会課題をスポーツマンシップで解決したいと挑む彼らから刺激をいただいた。

スポーツ・エンターテインメントサービス論

(木曜・5時限目)

ゲストスピーカー
招聘



スポーツ・エンターテインメントサービス論 第11回 CHEERS!

Special Guest !!!

7.23
17:20~19:05

島田慎二
Shinji Shimada

公益社団法人
ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
理事長 (チェアマン)
公益社団法人日本バスケットボール協会 副会長
一般社団法人全日本テコンドー協会 理事

1970年新潟県生まれ。日本大学法学部卒業後、マッピングターナショナル入社 (精工イデイエス)。取扱店買取・利益申告等数社PANO1の成績を挙げ、1995年前職役員と共に独立。9.11米国同時多発テロ後、2001年ハルバーター・ナショナル設立。2010年リコ・ホールディングに全株式売却。同年リカオン設立。コンサルテイング事業に従事。2012年ASPE (興業フェイツみなばし) 代表取締役社長就任。2016年Bリーグ理事就任。2017年Bリーグ理事長 (ビスチェアマン) 就任。2018年日本トップリーグ理事兼専任就任。2019年千葉ジェッツみなばし代表取締役会長。日本トップリーグ横浜横浜クラブ経営アドバイザー。Bリーグクラブ経営アドバイザー。ライオンセファール福岡クラブ経営アドバイザー。全日本テコンドー協会 副会長就任。2020年7月公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ理事長 (チェアマン) 就任。

スポーツ・エンターテインメントサービス論 第11回 CHEERS!

スポーツビジネスの
現在・未来と人材を語ろう

7.23
17:20~19:05

デロイト トーマツ
ファイナンシャル アドバイザリー
シニアヴァイスプレジデント

里崎 慎 × 徳重 剛
Shin Satozaki Tsuyoshi Tokushige

鹿児島ユナイテッドFC
鹿児島スポーツプロジェクト
代表取締役社長

1976年埼玉県生まれ。デロイト・トーマツファイナンシャルアドバイザー - 自営会社 シニアヴァイスプレジデント。M&A及経営戦略に従事する傍ら、デロイト・トーマツグループにおけるスポーツビジネスグループを立ち上げ、その中心メンバーとして活躍。NBAやリーグ、Bリーグを中心に、各クラブ・組織に対するアドバイザーやPMO業務に多数従事している他、スタジアム・アリーナ建設におけるサポーターの定着率向上に貢献する。デロイトから賞与されている「リーグ マネジメントトップ」の分析・執筆も担当する。公認会計士。

1977年鹿児島県生まれ。上野大学在学中に経理会サッカー部部長を務める。卒業後に公認会計士試験に合格し、監査法人トーマツに入社。2008年に同社を退社して、鹿児島県公認会計士事務所を設立。2010年からFC KAGOSHIMAの代表を務め、2013年に同クラブとFCの両方を統合して生まれた鹿児島ユナイテッドFCの代表に就任した。同クラブは、鹿児島県で初めてJリーグ加盟が承認された。2016年シーズンからJ1に参入。2018年シーズンには2位になり12位昇格を果たす。2019年シーズンには13位降格となるも、12月昇格。さらには11月昇格をめざす。

第11回講義となる7月23日に、島田慎二氏 (B.LEAGUE チェアマン) ×里崎慎氏 (デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー シニアヴァイスプレジデント) ×徳重剛氏 (鹿児島ユナイテッドFC 代表取締役) による講義セッションを実施。講義で学んだ理論と、現場のさまざまな立場からの実務上の言葉・エピソードとを融合させる機会になった。

◆オンライン講義によって物理的距離・拘束時間が縮まる

忙しいゲストであればあるほど、国府台へ招聘する場合と比較して、移動距離がなくなる分、拘束時間が短くできることもあって、かえってゲストスピーカーとしては招聘しやすい。時差さえクリアできれば、海外からのゲスト招聘もできることもあり、今後に向けては可能性が広がったことは実感できる。

◆先の読めない時代を生きる若者たちに興味のある大人たち

学生にとっても「非日常」的な場を提供してくれるゲストスピーカーの存在は刺激になる。ゲストに来てくださるみなさんも、今の若者たちの気持ちには興味津々で、自分の経験が何かしら役に立てられるならうれしいという思いは大きいもの。一方で、普段から学生と触れ合っている教員ゆえのアドバイスも重要。

◆シナリオ設計・事前準備を丁寧に

受講者側の顔出し・声出しがない状況でのリアルタイム配信型の講義は、ゲストにとっても心理的負担が大きい。ご希望に応じてゲストスピーカーに事前聴講していただき、シナリオも綿密にディスカッション。学生からのチャットを受け付けながら、ゲストを招いたトーク番組を進行する感覚で。

学生からの声

オンライン講義のメリット・デメリット

学生からの声

メリット

移動時間の有効利用

資料の繰り返し確認

課題に時間をかけられる

自主学習意識醸成

教員に質問しやすい

デメリット

通信環境格差による不公平

授業方法の不統一

大量の課題

一方的講義による当事者意識欠如

孤独感がある

オンライン講義に関する改善案

学生からの声

リアルタイム配信+録画

インスタライブ&ニコ生会議的・匿名チャットありライブ講義

多すぎる課題に対する一元管理機能・講義時間内に対応できる課題

ビデオオン・グループワークなど、顔が見える講義の工夫

ゲストスピーカー招聘・他大学連携等への期待

自主的学習を促進する図書館サービスのオンライン利用化

さいごに

教員も学生も未体験の時代

教員を労う学生も少なくない。常識・経験だけでは語れない時代を迎え、教育の世界も変革が必要な状況とも思える。教員・学生ともに育つ「共育」サービスの「共創」を模索すべき時かもしれない。

学生全員が特等席

受講者全員が教室最前列センター席で受講できる環境。大人数の講義でも大教室の最後列の隅っこで負のオーラを出す学生のいない、全員が受講しやすい学び環境はすでに実現されている。

重要になるコミュニケーションの場づくり

他愛ない雑談、ランチタイムなど、友人関係も大学生活の財産であり、学生の人間的成長に不可欠な要素。リアル・リモートを問わず、コミュニケーションがとりやすい環境づくりは今後の課題。